

QPA会通信 ≪No.83≫ 2024年 第2号

2024年3月31日 一般社団法人公園管理運営士会発行

1 【徒然公園記】コロナ禍と公園の再評価

細川 卓巳（東京都建設局西部公園緑地事務所長）



新型コロナウイルスが国内で初めて確認された令和2(2020)年1月15日から現在4年経過している。令和5(2023)年5月8日には、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症となるなど一定の収束を見せ、都民生活も従前の状況を取り戻している。また、都立公園の利用状況もコロナ発生時の利用者数の減少から増大に転じており、公園に対する社会的評価も高まりを見せている。この間の都立公園利用者の推移を見ながら、公園の価値とは何か改めて考えてみたい。

東京都には、都立公園が84箇所、開園面積20,650,844.07㎡（令和6年1月27日現在）あり、23区内の公園を東部公園緑地事務所が、多摩地域を西部公園緑地事務所の2事務所体制で管理している。都立公園の多くは指定管理者制度による指定管理者が管理しているが、上野恩賜公園及び井の頭恩賜公園については、公園管理技術及び管理ノウハウの継承のため、東京都の直営管理体制で実施している。



写真1 桜花期の井の頭池

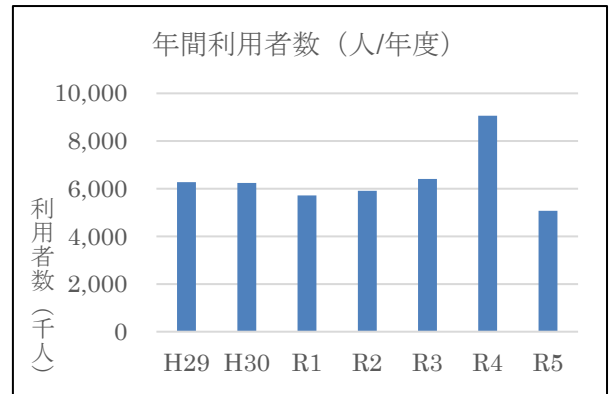


図1 井の頭恩賜公園の利用者数の推移

※令和5年度は令和6年1月までの集計値

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、令和2(2020)年4月、内閣府の緊急事態宣言及び東京都の緊急事態措置が発せられ、都立公園では、5月の連休に向けて混雑抑制のため公園内の動物園・植物園等の有料施設、全ての駐車場の利用休止及び遊具広場やイベント開催の利用制限を行った。また、来園者を減少させるため都民に「公園利用の自粛」を要請し、公園の新たな利用ルールとして、①原則としてマスクを着用（特にランニング時は専用マスク・バフ等を推奨、他のランナーや通行者との十分な距離をとる。）、②こまめな手洗い・消毒、③人と一定の距離を確保、④混雑している場所、時間帯を避けること、⑤家族など少人数での利用を設けた。その後、変異ウイルスの猛威を経て、一定の落ち着きを見せ公園の有料施設の再開、イベント等の制限解除となり、今日を迎えている。

1例として井の頭恩賜公園の利用者数の推移（図1）を見てみると、新型コロナウイルス発生時の令和元(2019)年度は5,720千人と前年の6,238千人に比べ利用者数が減少したが、令和2年度には公園利用の自粛をお願いしたものの増加に転じ、令和3年度には6,412千人と平成30年度を上回り、令和4年度9,064千人と急速に増加した。

都市公園は、良好な都市環境・都市景観の形成、都市の安全性の確保の他、市民の活動の場や良好な地域コミュニティの形成など多様な機能を有しているが、より多くの人々が利用することにその価値と評価があると考えている。コロナ禍を通じて感じたことは、市民活動の制約により、窮屈な空間から開かれた空間を求め、公園を利用することで、市民生活の潤滑剤としての役割を果たしたことが、今般の公園の再評価につながったものと考えられる。これからの都民のために新たな公園整備と良好な公園管理を進め、東京の人が住みやすい環境を創出し、提供していきたいと考える。

2【徒然公園記】令和の首里城復元 -見せる復興・人材育成事業等-

(一財) 沖縄美ら島財団 首里城公園管理センター

首里城は、かつての琉球王国の国王・王族の住む「王宮」、行政機関の中核、王国祭祀の拠点、文化芸術の中心でした。琉球王国は中国・日本等との交流を通じ、独自の文化を発展させ、その文化の粋が首里城の建築に集められました。

明治12年(1879年)に琉球王国が滅亡した後、首里城正殿等は国宝に指定されましたが、昭和20年(1945年)の沖縄戦で消滅しました。戦後、跡地に建てられた琉球大学の移転に伴い、公園整備事業が始まり、平成4年(1992年)に首里城公園が一部開園しました。平成12年(2000年)には首里城北殿で「九州・沖縄サミット」社交夕食会が行われ、また首里城跡等が世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」に登録されました。



2019年1月撮影

首里城復元事業も順調に進み、令和元年(2019年)2月に全面開園しましたが、同年10月31日の火災で首里城正殿等9施設が焼失・一部焼失しました。

首里城正殿等の焼失から3年後の令和4年(2022年)に、正殿復元工事が着工されました。この「令和の首里城」復元工事では、工事過程を段階的に一般公開する「見せる復興」をテーマとして関係機関(内閣府沖縄総合事務局・沖縄県・沖縄美ら島財団等)が連携し、事業を展開しています。復元工事では、消失した首里城正殿の赤瓦を新しい正殿の赤瓦に再生するシャモット製作ボランティア事業や、工事現場での宮大工体験等が人気のイベントになっています。管理運営では、お客様から「正殿の木材(ヒノキ)の破片を記念に持ち帰りたい」との要望にお応えし、ヒノキの端材に「令和の復元」の焼印を施した商品を販売したところ大変好評です。

「見せる復興」が着実に進む一方で、首里城復元方針等を検討する「首里城復元に向けた技術検討委員会」では、復元工事の技術者(職人)の確保が課題となっています。



宮大工体験

そこで令和4年(2022年)11月に内閣府沖縄総合事務局・沖縄県・沖縄美ら島財団・沖縄県立芸術大学の4者で「首里城復元における技術継承・人材育成にかかる連携協定」を締結し、正殿・南殿・北殿等の復元、その後の補修を見据え、次世代の技術者・職人の育成に着手しています。



ヒノキの端材から作られた商品

4者連携協定の枠組みの下、当財団は、沖縄県に寄せられた寄付金である「首里城歴史文化継承基金(首里城未来基金)」の人材育成事業事務局となり、建造物木工(宮大工)・木彫刻の2分野で研修生を公募、育成を開始しました。人材育成事業は講義・実習・視察から構成され、沖縄県立芸術大学での木彫刻講師による実習、内閣府沖縄総合事務局の協力で、正殿工事現場を視察・宮大工による解説を受ける機会が設けられました。視察先の法隆寺・薬師寺・興福寺・平城宮跡歴史公園・美術院奈良博工房では、伝統技術の知識・技術継承の心得等を習得、研修生個々の技術の錬磨や継承への更なる動機付けにつながり、琉球王国時代の伝統技術を継承する新たな試みとして成功裏に終わることが出来ました。

当財団は、今後も「見せる復興」において、地域の皆様とともに「令和の首里城復元」に伴う復興の機運を盛り上げる事業展開を行い、「人材育成事業」では、復元工事と連携した若手技術者の育成を通して伝統技術の継承等への貢献に努めてまいります。



沖縄県立芸術大学での木彫刻実習



正殿工事現場視察



奈良県視察(薬師寺)

3【会員の声】京都の名勝 円山公園での新しい取り組み - (産/官/学/宗) 連携 -

賛助会員 京阪園芸(株) (PMO 事業部 巖野 嘉明)

「夢もいざよう紅桜」(祇園小唄)。枝垂桜で著名な名勝円山公園(以下同公園)では、2023年4月から京都市の「名勝円山公園保存管理計画」の中心テーマである「四時遊覧」(周辺の寺社、重層的な歴史・文化の跡、自然・景観などを、四季を問わず歩き見て楽しむこと)の機会を提供する取り組みを進めている。



京阪園芸は、特徴の異なる数多くの公園の指定管理実績から、利活用に関する企画運営アドバイザーとして同公園の指定管理者(公財)京都市都市緑化協会(以下同協会)及び、地域の(学法)京都文教学園(以下同学園)と包括提携を結び、隣接する総本山知恩院(以下同寺院)を含め、このテーマに相応しいコンテンツを企画・運営してきたので、その概要を紹介したい。

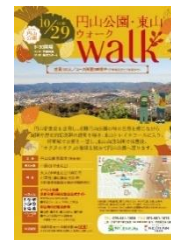
① 「キクタニギク」の復活と「京都ゆかりの菊展示とセミナー」

同協会は、同公園の借景となる東山「菊溪(きくたに)」に、かつて自生していた野菊「キクタニギク」(京都府絶滅危惧種)の生息域外保全や普及啓発に取り組んでおり、まず、これに協力し、更に「野生復帰」への協力やキクタニギクの生活での利用を目指す取り組みとして「円山公園キクタニギクプロジェクト」を立ち上げた。京都市北部・岩倉の農家等が育てた苗を譲り受け、同学園の小学校4年生クラスや中高の「園芸クラブ」で育苗。開花時期の11月3日～19日には、同時に京都の栽培菊の粋である大本山大覚寺の「嵯峨菊」に加え、秋の京の有力商家玄閻を艶やかに彩る前垂れ型盆栽仕立て「懸崖菊」の計3種類を調達し、「京都ゆかりの菊の展示&セミナー」を開催した。珍しい菊の容姿を見て驚かれる訪日外国人の方々に対しては、同学園のESSクラブのメンバーに英語での解説や菊にまつわる伝統茶菓の接待をお願いし、大変好評を頂いた。



② 「円山公園・東山ウォーク」

同公園から借景・京都東山に連なるトレイルコースに入り、「キクタニギク」の復活を目指す活動も行われている「菊溪」を訪れるウォーキングイベントを10月29日に行った。



‘70年代の関西フォークの聖地である「円山公園音楽堂」ステージで、同学園の応用健康科学専門家の指導によるウォーミングアップの後、坂本龍馬

など歴史上の人物の石碑など公園のみどころを訪ね歩き、続いて東山に登頂。将軍塚にある青龍殿、山頂から眼下に広がる市内の街並みや遥か遠方に至る景色を大いに楽しんだ。健康増進の感覚と豊饒な歴史文化を一時に味わう、何とも贅沢な時間に身を置いた参加者からは、多くの感謝の念を伝えていただいた。

② 総本山知恩院の布教司会による「青空法話」

長く続いたコロナ禍、未だ収まる見込みのない戦争や災害・気候危機に対し、私たちはどのように向き合い、日々暮らしていくべきか?全国幾多の寺院の総本山や僧侶・上人が集積するこの地で、是非とも聞いて対話してみたい、という市民ニーズに応える企画を立てた。

第一回シリーズは、隣接する浄土宗総本山知恩院に協力を申し出た。北に隣接する同寺院には、開祖法然上人が眠る御影堂(国宝)がある。また、国内外に約7,000もの末寺を有する総本山は、実に荘厳な構えで敷居が高い事この上なし。奮勇を奮って懸命に企画主旨を説明したところ、「来年開宗850年を迎えるに当たり、そのような取り組みも必要だと考えていた」との回答を布教師会より頂いた。こうして同公園での「青空法話」が実現し、10月の毎週末(土・日に7回)、命の尊さ、日々の苦しみの捉え方などを、時にはユーモアを交えながら分かり易く説法を施して頂き、対話として家族の介護、夫婦仲、など参加者からの身近な質問にもお答えいただくことができた。



今回の事例は東山を借景に西に八坂神社、南に高台寺、北に知恩院という歴史文化の連なる京の地での比類なきものとして自認するが、「公園」という地域にとって身近で重要な場や空間では、まず、その地の歴史(文化)を掘り起こし、周囲の花や緑や施設がどのように関連し変遷してきたかを知ることが最重要との知見を得た。その上で、各公園の特性を踏まえ、何よりも地域住民のニーズを捉え、多様なパートナーと共に、一步踏み出すコンテンツを企画・実施することが活性化の嚆矢となることを痛感した。最後に今般のプロジェクトは、すべからく(地元)京都市民の方々の参画により実現したことを付記しておきたい。

4 【オススメ公園】ウポポイ（民族共生象徴空間）

中田 哲史（一般財団法人公園財団）

札幌から車で約65分、新千歳空港から約45分の場所にある「ウポポイ（民族共生象徴空間）」（以下、ウポポイ）を紹介します。ウポポイがある北海道白老郡白老町は、札幌や室蘭などの道内の主要都市へのアクセスが良く、北海道の中でも夏は涼しく冬は比較的雪が少ない温暖でとても過ごしやすい場所です。そんな場所に令和2年7月、ウポポイはオープンしました。ウポポイは、「国立アイヌ民族博物館」、「国立民族共生公園」、「慰霊施設」により構成されているアイヌ文化の復興、創造等の拠点となるナショナルセンターです。

■「国立アイヌ民族博物館」

館内の1階には大画面でアイヌ文化を多様なテーマからわかりやすく紹介するシアターが、2階の基本展示室では「私たち」というアイヌ民族の視点から「ことば」、「世界」、「くらし」、「歴史」、「しごと」、「交流」の6つのテーマを丁寧に紹介しています。ウポポイに来られたら、まずは国立アイヌ民族博物館を見て回っていただくことをお勧めします。



国立アイヌ民族博物

■「国立民族共生公園」

アイヌ文化を五感で感じることができる体験型フィールドミュージアムで、アイヌ古式舞踊やムックリ演奏をはじめとした伝統芸能上演の鑑賞、食文化体験や伝統工芸品の製作等を体験することができます。特にアイヌ古式舞踊は圧巻の迫力で魅了されること間違いありません。ウポポイに来られたらぜひ伝統芸能上演をご観覧いただくことをお勧めします。また園内にはアイヌ文化と関わりのある樹木と草花を見ることができます。アイヌ民族は植物を採取し家や生活用具、祭具から食や薬など、多岐にわたり生活に役立ててきました。植物を通じて、自然とともにあるアイヌ民族のかつての暮らしを五感で感じられるとともに四季折々のポロト湖畔の景観もお楽しみいただけます。



伝統芸能上演

■「慰霊施設」

慰霊施設は、アイヌ民族による尊厳のある慰霊の実現および受け入れ体制が整うまでの間の適切な管理を行うために作られた施設で、ポロト湖東側の太平洋を望む高台に位置し、慰霊行事施設、墓所、モニュメントなどがあります。

ウポポイから車で約20分で虎杖浜温泉、さらにそこから20分ほど足を延ばせば登別温泉があり、ウポポイと温泉と食のセットを満喫いただけます。北海道に来られた際にはぜひお立ち寄り下さい。



伝統芸能上演

画像提供：公益財団法人アイヌ民族文化財団

※愛称である「ウポポイ」はアイヌ語で「おおぜいで歌うこと」を意味します。

5 関係団体からのお知らせ

■2024年度「公園管理運営士」認定試験のお知らせ

(一社) 日本公園緑地協会 公園管理運営士認定試験事務局

2023年度の試験では、新たに148名の方が合格され、更新登録では378名の方が更新されました。有資格者の増加により、今後益々の発展が期待されます。

2024年度の一次試験を下記の日程で実施します。

公園管理運営に携わっており未だ取得されていない方に、ご推薦をお願いします。

- ・一次試験 2024年6月15日(土)、会場：札幌、東京、愛知、大阪、福岡
- ・二次試験 2024年11月9日(土)、10日(日)、会場：東京、大阪

*「一次試験受験の手引き」は、(一社) 日本公園緑地協会HP (<https://www.posa.or.jp/>) で2024年2月末頃に公開を予定しています。なお、申込期間は、2024年3月1日～4月30日(当日消印有効)です。

2024年度の更新登録は、2019(平成31/令和元)年度に新規で資格を取得された方および更新登録をされた方が対象です。公園管理運営士の登録証の有効期限が、2025年3月31日までの方となります。更新登録のご案内は、更新対象者全員に6月中旬までに送付しますので、ご案内に沿って更新登録の手続きをしてください。

◆更新講習実施日、講習会場

2024年10月17日(木)	オンライン
2024年10月18日(金)	オンライン
2024年11月19日(火)	東京会場
2024年11月27日(水)	大阪会場

【問合せ先】 公園管理運営士認定試験事務局 ((一社) 日本公園緑地協会内)

TEL: 03-5833-8551 FAX: 03-5833-8553 E-mail: qpa@posa.or.jp

■令和6年度講習会 Park-PFIの実務を学ぶ「地方公共団体職員のためのPark-PFI実務の手引き」解説 開催

(一社) 日本公園緑地協会

【開催日及び開催場所】 開催日：令和6(2024)年5月21日(火) 13:00-16:00

開催方法：オンラインを使用したライブ配信(1週間のアーカイブ視聴有)

【募集定員】 なし

【参加費】 会 員 (当協会会員) : 7,700円(税込)

非会員 (上記会員以外の参加者) : 16,500円(税込)

【参加申込】 右の申込フォームからお申込み可能です。 <https://tayori.com/f/park-pfi-jitsumu/>

詳細は右記HPをご覧ください。 <https://www.posa.or.jp/summary/summary05/>

【問合せ先】 (一社) 日本公園緑地協会 担当：本野(もとの)、金成(かんなり)

〒101-0043 東京都千代田区岩本町3-9-13 岩本町寿共同ビル2階

TEL:03-5833-8551(代表) FAX:03-5833-8553 E-mail:kousyu2@posa.or.jp

連絡先など変更時の事務局へのご連絡のお願い

QPA 会通信をはじめ、会員の方々へのご連絡は原則 E-mailで行っています。E-mailをはじめ、所属先の住所などに変更があった場合、忘れずに事務局までご連絡ください。

一般社団法人公園管理運営士会 事務局

〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル8階

TEL:03-3527-3542 FAX:03-3527-3543 E-mail: info@qpajp.com URL: http://qpajp.com